



春日小だより

令和7年2月28日
練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子
学校通信 臨時号

令和6年度 練馬区立春日小学校 学校評価結果について

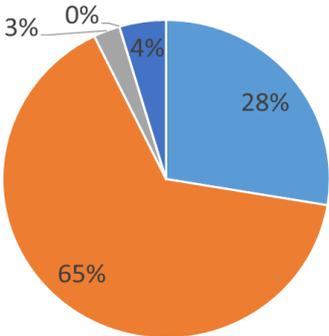
校長 後藤 京子

「令和6年度 教育活動についてのアンケート」にご協力いただきありがとうございました。春日小学校では、教育活動の改善・充実のために「学校評価」を行っています。「学校評価」では、保護者の皆様のアンケートや児童のアンケート、教職員の自己評価を行い、日常の観察、点検等総合的に検討し学校の内部評価を実施します。その後学校評価委員会（学校評議員の兼務）でご意見をいただき「学校関係者評価」を実施しました。学校評価の結果から分かった成果や課題を十分に検討し、令和6年度の教育活動に活かしていきたいと思えます。

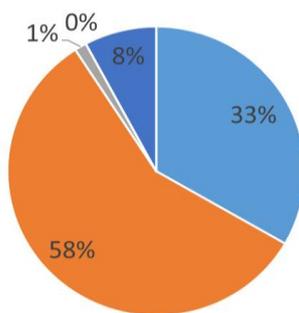
■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

1 保護者のアンケート結果

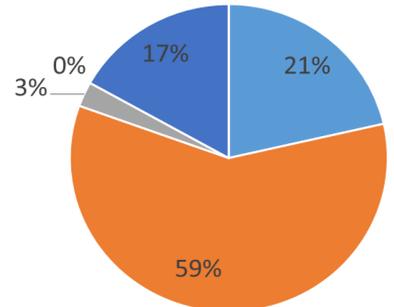
(1) 学校では、わかりやすい授業を行っている。



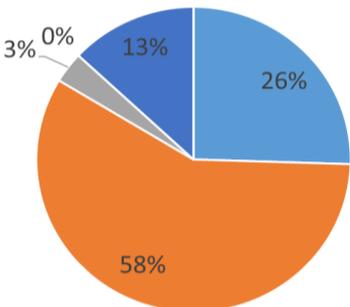
(2) 算数で、習熟度別授業（3～6年）や2人の教師による授業（1.2年）を行うことで、学習がわかりやすくなっている。



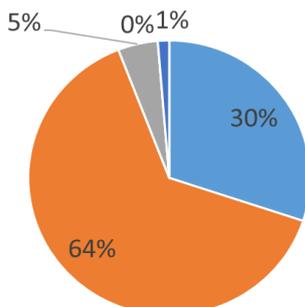
(3) 学校では授業の約束が守られている。



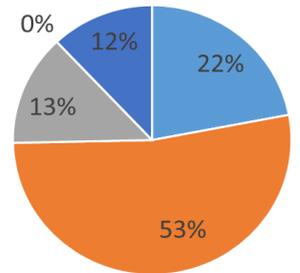
(4) 学校では、工夫した授業が行われている。



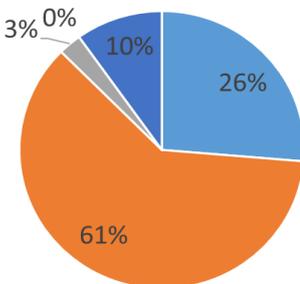
(5) 子どもは、授業を通して基礎的な力を身に付けている。



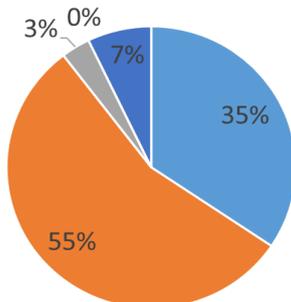
(6) ICT機器（タブレット、電子黒板等）を活用して、工夫した授業が行われている。



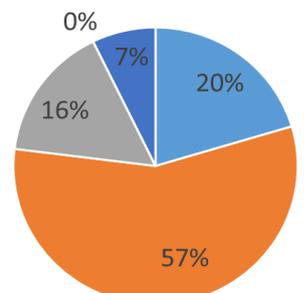
(7) 学校では、日々の授業の成果を見取り、児童への支援をし、授業をよりよくしようとしている。



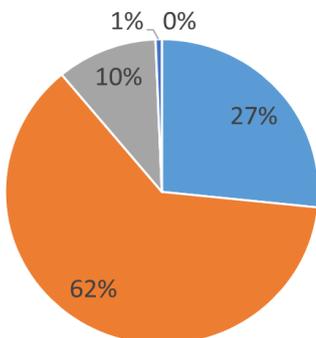
(8) 学校では発表や友達との意見交換等により、考えを深め、主体的に学習に取り組めるようにしている。



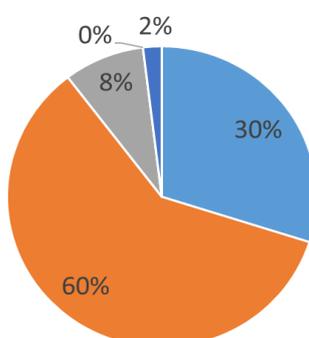
(9) 読書活動の充実を図り、感性を磨き表現力を高めている。



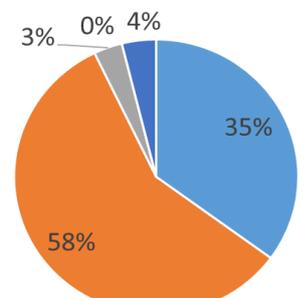
(10) 子どもは基本的な生活習慣を身に付けている。



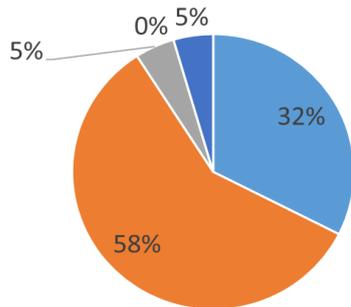
(11) 子どもは、あいさつができています。



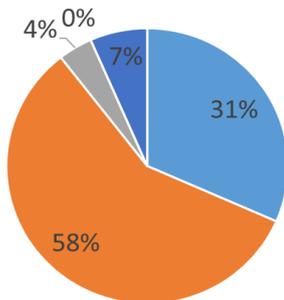
(12) 子どもは、学校や学級の一員として所属感や存在感を感じながら生活している。



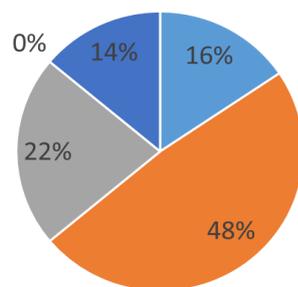
(13) 子どもに、まわりの人に対する思いやりや親切な心が育っている。



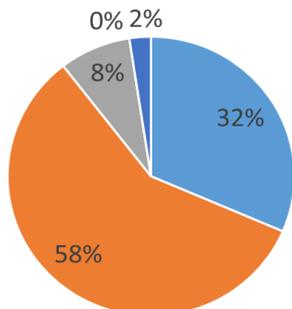
(14) 子ども一人一人を大切に指導が行われている。



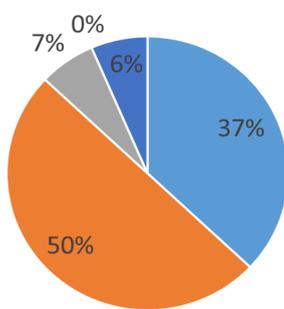
(15) 子どもは、将来の夢を考えたり、すすんで仕事に取り組んだりしている。



(16) 学校はホームページや学校公開を通して、学校や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている。



(17) 学校は、家庭や地域、外部の人材と連携した教育活動を積極的に取り組んでいる。



【考 察】

全17項目の内、8項目で肯定的意見（とてもそう思う・そう思う）が90%を超えました。特に項目（5）は94%と高い評価をいただきました。学校では様々な取組を行っていますが、その中心にあるのは日々の授業です。授業の内容や工夫は時代によっても変化しますが、教材研究を行い、児童が学ぶ喜びを感じられるような授業実践をこれからも行っていきます。

一方で、昨年度と比較したときに、ほぼ全ての項目で肯定的評価が下がっていました。その原因は何かと考察したところ、「わからない」の割合がどの項目でも増えていました。その割合が10%を超える項目が5つもありました。特に項目（3）では17%もありました。この項目に代表されるように、学校での様子がなかなか伝わらなくなったということが言えます。この大きな要因になったのは、今年度から練馬区での土曜授業・学校公開が年4回に減ったことが挙げられると思います。

学校公開のモチカは、同じ東京都内でも各自自治体でそれぞれ違っています。現在の大きな傾向として、その回数は減少しています。これは、授業時数の見直し（余剰時数の大幅カット）や、習い事などに伴う土曜日の過ごし方の変化、児童と教員への過度な負担の軽減などが主な要因です。時代の変化に合わせ、変わらざるを得ない部分でもあります。ここで大切なのは、どうやって学校の様子を保護者・地域の皆様に伝えるかを模索することです。本校では、日々の学校生活の様子を、学校ホームページで紹介しています。基本的に毎日更新しています。それをご覧いただき、ぜひお子様と学校の話をしてみてください。お子様の口から直接学校の様子が伝わるのが、一番の伝達になります。また、「学校安全安心ボランティア」としてご来校いただければ、学校内を見回りながら、学校の日常の様子を知ることができます。皆様のお時間のあるときに、ぜひご協力いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

今回のアンケートで、否定的意見が10%を超えた項目が4つありました。それは、次年度に向けた課題ととらえています。項目（6）のICT機器の利活用は、昨年度も課題となっていました。着実に活用場面は増えていますが、まだ模索中というのが正直なところです。他校での実践なども情報収集して、より良い利活用を目指します。意外なのは項目（9）の読書活動でした。本校では、全学年でボランティアの皆様による読み聞かせや、他校の校長先生と協力した校長先生による読み聴かせ、春日町図書館との連携なども行っています。本離れが進む現代ですが、児童にとって、本は自分の世界を広げる貴重なツールです。日常の実践を今一度見直していきたいです。そして、項目（15）。これはぜひご家庭でも話し合ってみてください。大人が先を示すのではなく、子供自身が様々な考えをもてるような会話や環境づくりが大切です。本校でも、今年度・来年度と校内研究の研究主題を「今や未来を自分事として考えられる児童の育成～ESD（持続可能な開発のための教育）の視点に立った主体的・協働的な学びを通して～」として、現在から未来まで見据えた児童の育成に取り組んでいます。変化の激しい、予測困難な時代ですが、児童が将来に夢や希望をもてるような授業実践を目指していきます。

【保護者の皆様の自由記述より】

クラスにより、長期休暇時の宿題に違いあり、平等にしていきたい。漢字テストなど、クラスにより採点の違いあり、統一した教育をお願いしたいです。

→長期休業中の宿題に関しては、同学年内で学級（クラス）による違いはありません。しかし、それまでの取組に応じて、児童ごとに個別の課題が課されることはあります。各学年による違いは、学年の実態が異なるためあります。漢字の採点基準も、基本的な共通点はあります。しかし、児童の実態に応じて採点基準を変えることが通常です。それについて疑問をもったときは、ぜひ担任までお問い合わせください。

授業内容について時代柄、先生が厳しく指導することが難しいように見受けられ、どうしても下位の子供に配慮する為、総合的に学力が向上しないように感じます。

→児童にどのような力を付けていくかは、その時の学習指導要領に応じて定められています。現在は、「主体的・対話的で深い学び」と言われるように、生涯にわたり自ら学ぶ姿勢を継続できるような基礎を養う方向を重視しています。今後も、支援を必要とする児童を取りこぼさず指導すると同時に、発展的に学びたい児童に対して幅広い選択肢を与えられるような授業を目指して取り組んでまいります。

頑張っているのに、成績に反映されず、なぜなのかもわからず不明瞭で、やる気をなくしがちです。

→評価に対して疑問があるときは、ぜひその時に質問ください。評価は教員が根拠をもってつけています。一方で、努力が結果や成績に結びつかないというのは、これからも経験することです。しかし、その努力は長い目で見たときに無駄ではありません。ぜひその頑張りも、ご家庭で認めてあげてください。

専科の先生が多くいらっしゃいますが、先生が生徒を覚えられない事もあるようです。落ち着いた環境で勉強が出来ることを望みます。

→おそらく、ここで言われている「専科の先生」とは、時間講師の先生方と思われます。時間講師は、限られた時間内で児童と接するため、そのようなことも起きているかもしれません。しかも、今年度の春日小では、年度途中で時間講師を増やしたので、そういった実態もあったと思われます。次年度は、時間講師の任用についても、スムーズに進められるように、区や都との協力体制を構築していきたいです。

子供一人一人を大切にとあるが、どこをみるのか何をみるのか…伝わってない印象を受ける。大切という言葉の力に頼りすぎでは？角度が変われば違う図形に見えますよ。

→角度が変われば…おっしゃる通りです。だからこそ、正解がありません。大切に思うから叱るのか、諭すのか、あえて様子を見るために距離を取るのか。それはその時の場面・かわる児童の実態によって変わります。しかし、いつでも教職員は「大切に」思うから選択しています。そこに疑問があるならば、ぜひその時に伝えてください。意見を交わすことは、それ自体が児童を「大切に」思うことにつながります。

先生方のご負担が多く、働き方改革を推進されていることとは思いますが、運動会など行事の中身が精選されてしまい、子供の活躍の場が減ってしまっているように感じます。全体的に穏やかで先生方の温和な対応もあり、父母の方々の関係も良好です。教職員の先生方もご多忙の中、尽力をいただいていることに感謝申し上げます。

→学校教育は、子供たちの成長のために様々な取組を行っていますが、社会の変容に伴い新しいものが次々と取り入れられ、ビルド&ビルドになっていることが問題視されてきました。教職員の働き方改革が話題になっていますが、一方では児童に対する過度な負担を取り除くことも重要視されています。また、気候変化による対応の必要性の観点から、児童の体調・安全管理も考慮しています。行事の見直し・精選を進め、児童も教職員も充実した時間をもてるように改善を図ってまいります。

入退場や呼称のない入学式にはがっかりしました。とても晴れ舞台とは思えませんでした。先生方の働き方改革は大切なことですが子どもの晴れ舞台成長の式典はもっと大切にしてほしいです。

→各種式典の進行についても見直しが進められています。教職員の働き方改革が言われていますが、理由はそれだけではありません。例えば、入学式に関して言えば、新入生を長時間式典に参加させることが、以前から改善の対象になっておりました。また、入学式当日は、他学年の新年度始業式もその前に行われており、それらを終えてから新入生を迎えるため、新入生に対して十分な指導をすることができません。限られた時間内で式典を円滑に進行するために、皆様のご理解をいただければ幸いです。

近隣の公園で大麻グミや他校の児童が中高生に怖い目にあわされたという情報を聞いたが、学校に問い合わせた親御さんもいるのに学校から連絡が注意喚起メールがまだにきていないのを不安に感じています。（注：アンケート回答時点）地域の方との交流も大事ですが、こう行った事は、後回しにされないほうが良いのではないかと思います。

→この件は、情報をいただきましたが、その情報の出所がはっきりせず、内容の真偽も確認が取れなかったため、慎重に聞き取りを進めてからの情報発信となりました。学校が公に情報を流す以上、インターネットの掲示板やLINEでの情報だけでは不十分です。大麻グミについては、現時点で警察もまだ事実確認はできておりません。従いまして、学校も大麻グミについては触れず、一般的な注意喚起を改めて全学級に行うこととしました。ご理解いただければ幸いです。

学校日よりですが、行事予定や各学年の持ち物など子供自身が見て予定を把握したり、準備ができるのでシグフィのみでなく、以前のように紙で配布があると助かります。

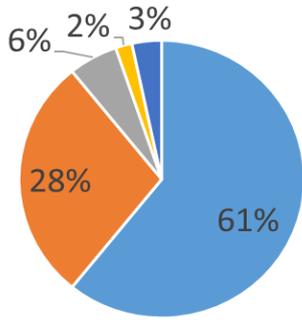
→配布物は、資源の削減や印刷の時間短縮なども考慮し、今後も配信で行われるものが増えていきます。基本はsigfyですが、希望するご家庭には印刷したものをお渡しすることも可能です。どうしてもご家庭での印刷が難しい場合は、担任に伝えていただければ、紙で印刷したものをお渡しいたします。

学校公開が減り、通知表の先生からのご意見欄も無くなりました。学校のあり方が前より見えなくなったと感じています。

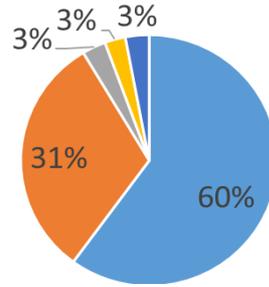
→学校公開の精選や通知表所見欄の削減も、練馬区の方針であると同時に、全国的な流れでもあります。学校公開は減りましたが、学校行事の公開や保護者参加型の授業実施など、少しでも直接かかわれる機会を設けられるよう工夫を考えていきます。また、1・2学期ともに個人面談を設定しておりますので、所見欄に代わり直接お伝えできればと考えています。

2 児童のアンケート結果

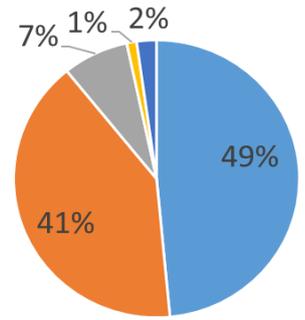
(1) 学校が楽しいですか



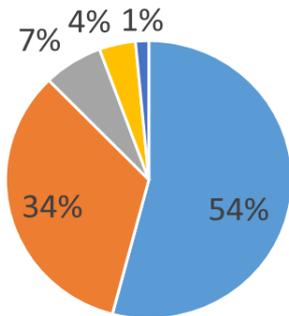
(2) 授業でおどろき・おもしろいな・たのしいなと感じますか。



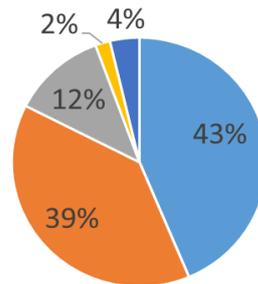
(3) 勉強はよくわかりますか。



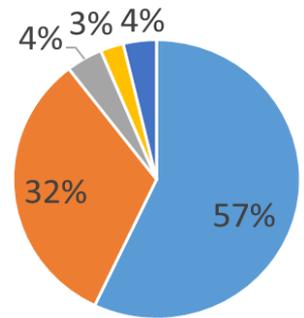
(4) 算数の勉強はよくわかりますか。



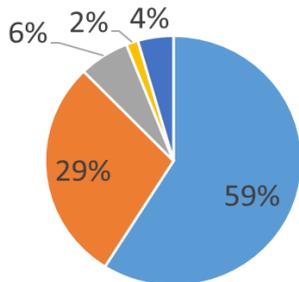
(5) 授業では、発表や友達と意見交換をたくさんしていますか。



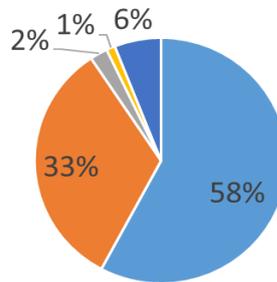
(6) 勉強のときの約束を守っていますか。



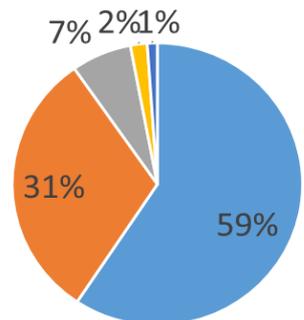
(7) ICT機器(タブレットや電子黒板)が使われることで、授業がわかりやすいですか。



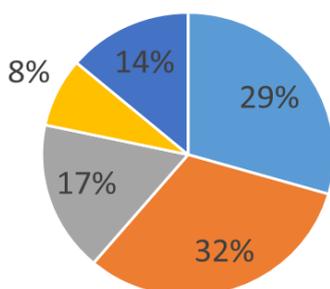
(8) 春日小の生活のきまりを守っていますか。



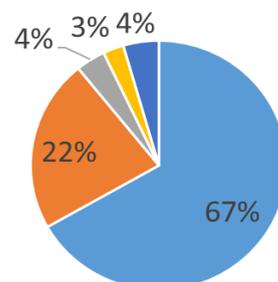
(9) あいさつやへんじができていますか。



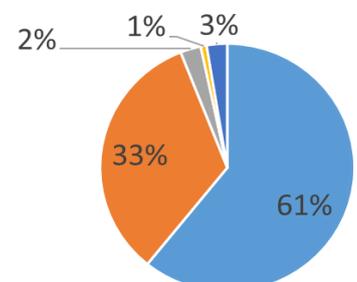
(10) 読書貯金が目標にとどきましたか。



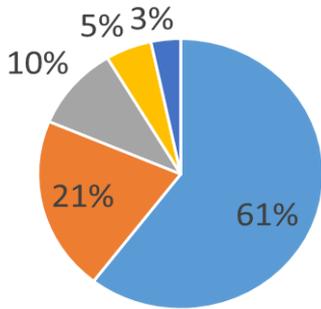
(11) 自分のクラスにいると安心できますか。



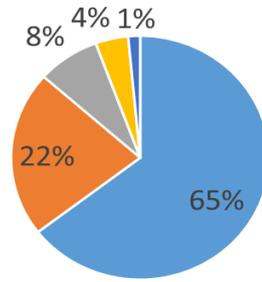
(12) 友達と仲良くしたり、友達の気持ちを考えて行動したりしていますか。



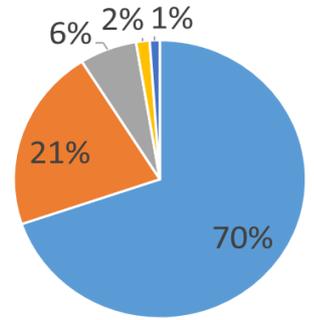
(13) 体力がついてきたと感じますか。



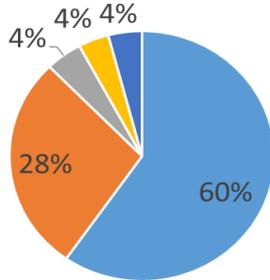
(14) 毎日元気に過ごせるように、よく寝て、ご飯をしっかりと食べていますか。



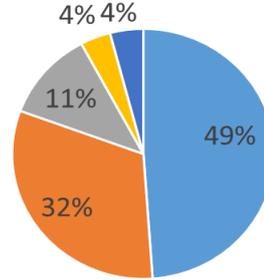
(15) 休み時間に外で遊んでいますか。



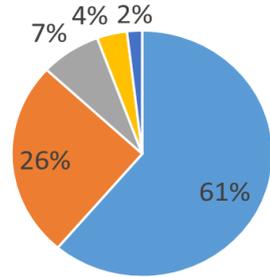
(16) 危険なことや危ないことにならないように、考えて行動していますか。



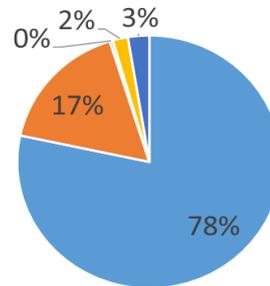
(17) 将来の夢を考えたり、いろいろな仕事をすすんでしていますか。



(18) 自分の体のために給食を食べ、できるだけ残さないようにしていますか。



(19) ゲストティーチャーなどから教えていただく機会を楽しみにしていますか。



【考 察】

児童アンケートの結果を見ると、多くの項目で9割前後の児童が肯定的な回答をしています。9割ということ、大部分がプラスのイメージをもっているという解釈にもなりますが、逆に考えれば「10人のうち1人は否定的な感情をもっている」ということになります。学校は、この1割をどのように導いていくのかということも、常に考えなくてはなりません。100%の満足度が得られる現場というのは、学校に限らず、存在することはないと思います。しかし、その理想の極致である「誰もが満足感を得られる場所」を模索し続けることが、私たちの使命だと感じています。現状に満足することなく、常にできる改善点を探していきます。

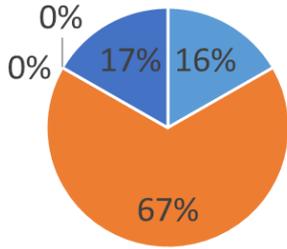
今回の結果で、「わからない」を含む否定的回答が15%以上見られた項目が、全部で4つありました。その回答は、保護者アンケートの結果ともリンクするところが見られます。根底には共通した問題点が潜伏していると考えられます。特に大きく数値に出たのは、項目(10)の読書貯金でした。これは、児童の本離れの加速が端的に表れた結果であると同時に、「読書貯金」の目標値やカウントの仕方を見直す必要性も感じました。読み聞かせをしていただいた本や、お話し会に参加して紹介してもらった本なども、読書貯金に加算してよいのではないかと思います。児童が本に親しんでいるという実感をもてるような取組を今後も模索していきます。

また、項目(17)も、現在の児童が抱えている悩みを表現していると思います。現代は未来が見えにくくなり、希望的な観測がもちにくくなっています。しかし、裏を返せば、それは大人の責任です。授業だけでなく、日常から子供たちに未来を見据えた話をどれだけできているか、考える機会を作っているか、それが問われます。これは学校・地域・家庭すべてで考えていくべき課題です。項目(5)もこれと関連しています。自分の意見をもてること、友達の意見に触れる機会が増えることで、自分の考えが広がります。それが未来を見る目を養うことにもつながります。自ら試行錯誤し、多様な考えに触れられる機会をさらに設けていきたいです。

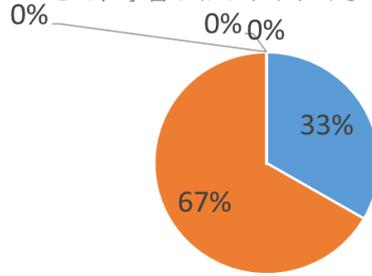
項目(13)も、現代的な課題です。学校では、体育の授業だけでなく、休み時間の遊びを通して体力の向上も目指しています。ぜひ放課後も、可能な範囲で体を動かす時間を取っていただければありがたいです。

3 学校評議員アンケート結果

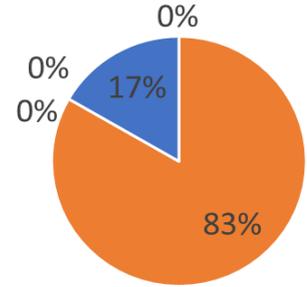
(1) 学校では、わかりやすい授業を行っている。



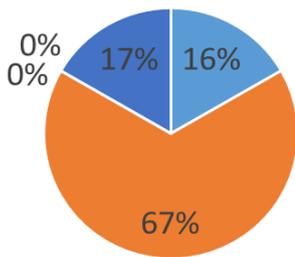
(2) 算数で、習熟度別授業（3～6年）や2人の教師による授業（1.2年）を行うことで、学習がわかりやすくなっている。



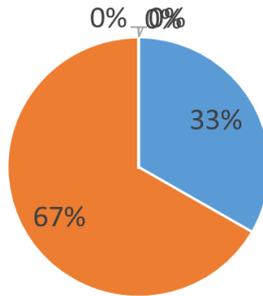
(3) 学校では授業の約束が守られている。



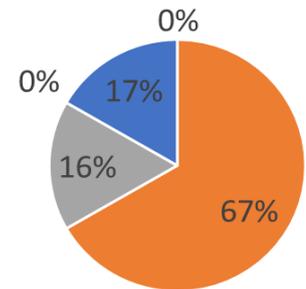
(4) 学校では、工夫した授業が行われている。



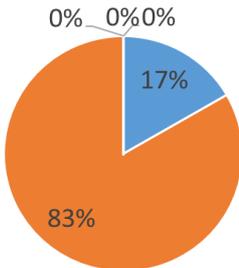
(5) 子どもは、授業を通して基礎的な力を身に付けている。



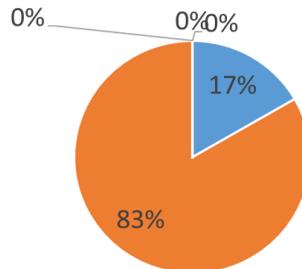
(6) ICT機器（タブレット、電子黒板等）を活用して、工夫した授業が行われている。



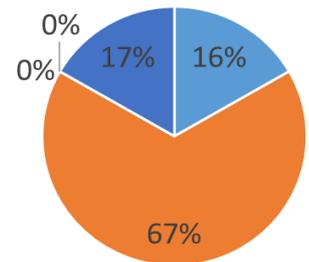
(7) 学校では、日々の授業の成果を見取り、児童への支援をし、授業をよりよくしようとしている。



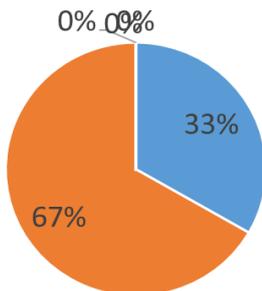
(8) 学校では発表や友達との意見交換等により、考えを深め、主体的に学習に取り組めるようにしている。



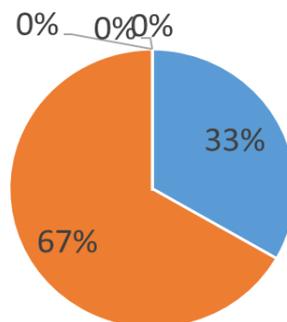
(9) 読書活動の充実を図り、感性を磨き表現力を高めている。



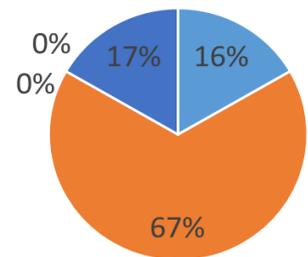
(10) 子どもは基本的な生活習慣を身に付けている。



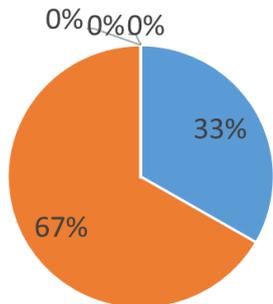
(11) 子どもは、あいさつができています。



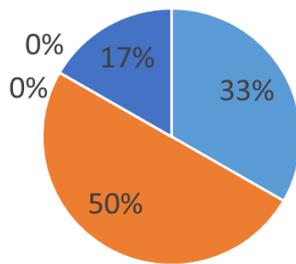
(12) 子どもは、学校や学級の一員として所属感や存在感を感じながら生活している。



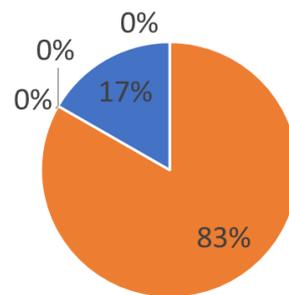
(13) 子どもに、まわりの人に対する
思いやりや親切な心が育っている。



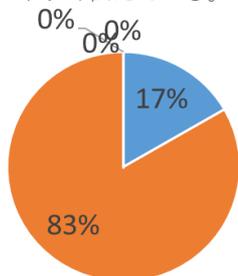
(14) 子ども一人一人を大切に
して指導が行われている。



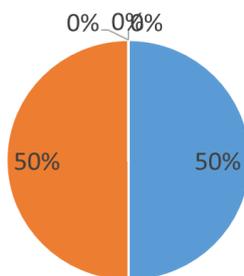
(15) 子どもは、将来の夢を考えたり、
すすんで仕事に取り組んだりしている。



(16) 学校はホームページや学校公開を
通して、学校や子どもたちの様子をわかり
やすく伝えている。



(17) 学校は、家庭や地域、外部
の人材と連携した教育活動を積極的
に取り組んでいる。



【学校評議員の皆様の声】

授業参観をさせていただいた時に、友だちに対して、いじめのようなリアクションがあったことで、クラス全員で輪になって話し合いをしている場面に遭遇しました。先生と生徒が本気で喋る事で、子どもたちの心に響くことがたくさん刻まれたと思っています。

PTA朝の読み聞かせをさせていただいています。4、5、6年生のどのクラスでも、集中して聴いてくれますし、感想も、深く心が受け止めている発言には、拍手が多かったです。先生と生徒たちのやりとりには、信頼感が感じられて、暖かい気持ちになりました。

図書館開放の活動をしています。今年は、SDG'sをテーマにしていると聞きました。6年生のレポートでは、自分の興味がある分野を調べて感想をまとめています。今の小学生が成長して行く道筋では、変化があちこちに起こり、価値観が変わってしまうかもしれません。その時に、自分の頭で考え、分からない時はどう調べれば良いのか、しっかりと学んでいただきたいです。

ゲストティーチャー、地域の方々、PTAのみなさんの後押しで、自分の頭で考え、歩いて行く子どもたちを育てていただくよう願っています。

【考 察】

昨年度、学校評議員の皆様にご回答いただいたアンケートに分かりづらいものが多かったため、今年度は学校評議員の皆様にも、保護者の皆様と同じアンケートに答えていただきました。また、学校評議員の皆様には、体育発表会や学芸会といった行事だけでなく、第2回目の学校評議員会の時に、日常の授業の様子も自由に見ていただきました。なかなか学校内の様子が伝わりきらない部分もありますが、リアルタイムで変化する指導の様子も見えていただけたことで、学校の生の様子を実感していただきました。それに対して、好意的な声を寄せていただけたことは、教員にとっても大きな励みになりました。

項目(17)に代表されるように、学校と地域のつながりについて皆様から好意的な評価をいただけたことは、大変うれしく感じます。学校は、地域とのつながりの中で存在しています。地域の特色を生かした教育を行い、この地域に愛着をもてる児童を育てることも、大切な学校の役目です。地域の皆様とのつながりを、これからも大切にしていきたいと思えます。

唯一否定的な回答をいただいたのは、項目(6)ICTに関するものでした。大きく変化していく時代の流れに合わせて、学校も指導に変化を加えていく必要があります。これは次年度以降も重点課題として考えてまいります。

4 教職員自己評価

令和6年度 教職員自己評価 集計結果

重点事項	評価項目		1回目	2回目
確かな学力の 定着と向上	・総合的な学習の時間、生活科を中心に、「なぜ」と問いをもつ場面を意図的に設定する指導を行っている。(新)	年間を通して	3.2	3.4
	・自己の学習活動を振り返り、協働的な学びを通して、自分の考えをすすんで表現する児童を育成している。	年間を通して	3.3	3.3
	・カリキュラムマネジメントにより、言語能力、情報収集能力、既習の学習内容の活用力を育成している。(新)	全教科、領域を通して	2.7	3.0
	・意図的・計画的に児童の学びの姿やノート、作品に温かく形成的に評価する。	・年間を通して	3.2	3.5
	・学習活動の工夫と、課題意識の持続と見通しをの持たせ方を工夫する。(新)	年間を通して	3.2	3.1
	・学習の基礎となる「規律ある学習習慣」を確立する。	6月までに基本事項を定着 以後継続指導していく	3.3	3.4
	・事前授業、検証授業を通して、教師全員による校内研究授業の参加意識の向上	各自最低1回	3.0	3.1
	・校内のミニ研修会の参加、OJTの主催、春日アカデミーの積極的な参加(新)	年に1回の春日アカデミーの参加、OJT研修の主催、ミニ研修の参加	2.7	2.8
	・ICT機器を有効に活用し、効果的に学べる授業を展開する。	ICT機器を毎日活用する。	3.1	3.3
健やかな心と体の育成	・学校と家庭の連携推進事業、SC、心ふれ、コーディネーターの活用(新)	6月までに基本事項を定着 以後継続指導していく	3.1	3.1
	・言語環境を整え、あいさつができるようにする。	6月までに基本事項を定着 以後継続指導していく	3.3	3.1
	・読書活動の充実を図る。	年間で高学年70冊、中学年100冊、 低学年120冊の読書貯金を殖やす	3.3	3.0
	・児童アンケート、児童個人面談を実施して、「いじめ」「不登校」「体罰」がなく、自己肯定感の高い児童を増やす。	毎月「生活点検表」を実施	3.2	3.2
	・カスガモランドの充実を図り異学年交流を通して思いやり心をはぐくむ。(新)	年間を通して	3.4	3.4
	・新体力テストの結果を生かし、体力の向上を図る。	昨年度・今年度の結果を元に、体育 授業の改善実施	3.0	3.0
	・学校2020レガシーを受け、スポーツ志向の学習を展開する。(新)	昨年度の結果を元に体育授業の改 善実施	2.5	2.5
	・休み時間、外で元気に遊ぶ習慣を定着させる。	全校一斉運動遊びの実施	3.5	3.4
	・学校安全計画に基づき、危険なことや事故から自分を守る力を育てる。	毎月の安全指導日に、安全指導を実 施	3.3	3.3
	・配慮を要する児童の実態を把握し、一人一人の教育ニーズに応じた指導を行う。	年間を通して	3.2	3.3
	・将来に対する夢や希望を醸成し、望ましい勤労観を身に付ける。	年間を通して	2.9	3.1
地域・保護者 との連携	・学習に保護者、地域や外部の人材を活用し、学習内容の充実を図る。	6月までに基本事項を定着 以後継続指導していく	3.3	3.2
	・学校HP、学校公開で学校・学年・学級の様子を積極的に発信する。	年5回以上	3.0	3.3
		学校公開は年に4回3時間ずつ、HP は週に2回以上	2.6	2.9

4よくできた 3できた 2あまりできなかった 1できなかった

【考察】

教職員の自己評価は、1学期終了後と2学期終了後に行いました。1・2学期を比較したときに、全23項目中11項目で1学期より2学期の数値が上昇していました。これは、1学期の評価を数値化したことで、自分たちの取組のどこに課題があるのか、教職員自らが自覚できたことが大きいと考えます。一方で、下降した項目が5つありました。そして、その中で最も下げ幅が大きかったのが読書活動に関する項目でした。これは偶然ではありません。保護者の皆様も、子供たち自身も、この項目には厳しい評価をしていました。やはり、読書活動に関する取組は、何かしらの改善が必要です。環境は整えられていますし、地域・保護者の皆様による協力もあるので、これらをうまくつなげていけるような方策を考えていきます。

2学期で自己評価が3を下回った項目が3つありました。どれも取り組んでいないわけではありませんが、次年度に向けて教職員の意識を向上していくべきポイントです。しかし、これらは裏を返せば「まだ改善できる」という教職員の意識の表れでもあります。常に課題意識をもち、現状に満足することなく、より良い学校をつくっていけるように邁進してまいります。

5 おわりに

今回のアンケートを通して、改めて地域・保護者の皆様が、学校に対して大きな期待を寄せてくださっていることが伝わってきました。様々なご意見をいただけたことも、信頼の証ととらえています。保護者の皆様から頂いた自由記述は、全て目を通したうえで、学校内では全てに対して校内共通の回答を作成しています。肯定的な声もたくさんいただき、私たちの大きな励みになりました。紙面の関係上、全てを紹介することができませんが、今後の学校教育を進めるうえでの大切な声として受け止めております。これから先も、良いこともそうではないことも、しっかりと意見交換をしていける関係の継続を目指していきます。今後とも、学校の教育に対し、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。